令和７年１２月１３日(土)陸奥新報（３面）

弘大ウェルビーイング領域拠点

総合研究所が開所

カワチ最高顧問「新知見、示したい」

開所式でテープカットする福田学長（右から2人目）、カワチ最高顧問（同3人目）ら

弘前大学（福田眞作学長）は12日、Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ（ウェルビーイング＝心身および社会的に健やかで幸せな状態）領域の研究拠点となる「グローバルＷｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ総合研究所」の開所式を行い、イチロー・カワチ最高顧問らがテープカットで船出を祝った。研究所では分野の枠を超えた総合知と産学官民金の連携で、世界的な先端研究・実証・開発に取り組む。本格始動は来年4月から。

世界で重視される「ウェルビーイング」。弘前大はウェルビーイング領域の世界的な卓越研究大学群の構築を掲げ、今年1月に国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（Ｊ－ＰＥＡＫＳ）」に採択された。研究所はその拠点となり、国内外の研究者ら１００人ほどが所属、住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」で蓄積された健康ビッグデータを核に研究を進めていく。

式典で福田学長は「（同研究所では）地域課題の解決と国際的な研究を進める。本学の将来ビジョンを具現化するとともに、研究成果を社会に還元し、地域と世界、双方に貢献するため成長していく」とあいさつした。

カワチ最高顧問は取材に対し「日本は長寿でありながら幸福度が低い。健康ビッグデータを核にさまざまな研究を進め、新たな知見を示したい。青森県、日本、そして世界のウェルビーイングに貢献するため、世界中から若手研究者を集めるなど人材育成にも力を入れていく」と語った。

石橋恭之所長は「全学を挙げて研究に取り組む」と強調。同研究所に集結する国内外の研究者らに対し「視野を広げ、社会課題を解決する新たな糸口を見いだしてほしい」と期待を寄せた。（稲葉智絵）